

## 議 事 要 旨

会議名称	伊那市地域公共交通会議・伊那市地域公共交通協議会
日時	令和3年7月27日（火） 午後1時30分から午後3時まで
場所	伊那市役所本庁舎5階 501・502会議室
議 事 要 旨	
<p>1 開 会</p> <p>2 会長挨拶</p> <p>3 報告事項</p> <p>(1) 令和3年度運行状況等について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局から令和3年度（4月～6月）の運行実績について説明（資料1）</li> <li>・バス路線については、減便等が行われたために昨年度と運行内容が異なる路線もあるが、今年度の実利用者数や一運行当たりの利用者数は、昨年度に比べ回復傾向にある。</li> <li>・ぐるっとタクシーについては、昨年度から運行を開始した西春近地区及び竜西・西箕輪地区において2,570名の利用があり、前年度比190%の大幅な増加となった。また、今年度運行を開始した富県・東春近地区及び新山・河南長谷地区においては1,706名の利用があった。</li> </ul> <p>⇒⇒ 令和3年度運行状況等についての報告は確認された。</p> <p>(2) 利用促進について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局から新型コロナウイルスの状況等を踏まえた今年度の利用促進について説明（資料2）</li> <li>【ぐるっとタクシー利用促進キャンペーンについて】</li> <li>・新規登録者の増加や利用促進を目的とし、運賃補助券の配布を行う。令和3年度末まで適用。この運賃補助券の利用により運賃が通常利用者300円、割引対象者150円となる。</li> <li>【保育園児向けのバスに関する教育（バス育）の実施】</li> <li>・市内保育園で実際の路線バス車両を用いて、園児の乗車体験や乗り方教室を行い、幼少期から公共交通に慣れ親しむ機会をつくる。一昨年前まで実施していた取組であるが、昨年度は新型コロナウイルスの影響のために実施できなかった。保育園からは「ぜひ実施してほしい」との声も寄せられていることから、新型コロナウイルスの様子も踏まえつつ、今年度の実施に向け調整を行っていく。</li> <li>【高齢者向けの周知・PR】</li> <li>・新たに65歳になった方を対象に毎月開催される「いな元気応援セミナー」において、ぐるっとタクシー等の利用案内を行っている。</li> <li>・また、各地区で行われる「脳いきいき教室」などの健康教室においても、ぐるっとタクシー等の利用案内等を行っている。今度のぐるっとタクシーのエリア拡大に向けて、引き続き実施していく予定。</li> <li>【その他】</li> <li>・昨年度はコロナ禍における移動支援策として「8月は毎日10円バスの日」を実施した。この取組は一時的にバス利用者を増加させる効果があったものの、取組終了後の利用定着に結びつけるのは困難であった。また、取組期間中は運賃の減収や民間路線への運賃の減収補填費用が発生することも踏まえ、今年度は“10円バス”の取組については実施しないこととする。</li> </ul> <p style="text-align: right;">【次頁へ】</p> <p>(委員) 補助券の配布状況について教えていただきたい。</p>	

- (事務局) キャンペーン開始時には、利用登録者全員に配布している。その分を使い切った後も車内で配布しているの、実質的には期間内であれば毎回補助券を利用できることになっている。
- (委員) 例年のバス育の実施状況について教えていただきたい。
- (事務局) バス育は一昨年度までは園ごとに日程を調整しており、年間2～3園で実施していた。今年度はコロナ禍ということもあるので、実施しても一昨年度同様、2～3園程度の実施になると見込まれる。
- (委員) 新規の利用登録者の増加に向けた取組について教えていただきたい。
- (事務局) 「いーな元気応援セミナー」「脳いきいき教室」においては、利用登録をされていない方が参加されていることもあるので、その場で説明や利用登録を勧めている。また、今年度10月から運行を開始するエリアについては、各家庭に登録用紙がセットとなった周知チラシを配布している。
- (委員) 運賃補助キャンペーンの実施によって減少した運賃収入分は、市が実質的に負担することになるのか。
- (事務局) 運行経費から運賃収入を差し引いた分が実質の市の負担となるが、キャンペーン中は運賃収入が減るため、市の負担が増加することとなる。
- (委員) キャンペーンも良いが、経費がかなりかかっていると思われるので、なるべく経費がかからないような取組を検討していただきたい。
- (会長) 元々運賃補助キャンペーンの実施は、昨年度の運行開始当初、コロナ禍の影響により利用が伸び悩んだことに対する刺激策として実施したものであったが、その後も新型コロナウイルスの感染状況が収束しきらないために、繰り返し延長されてきているものである。一方で、割引料金での運行が固定化しているように利用者に捉えられてしまう部分もあるかと思われるため、今後どのような形が良いのか考えていかなければならない。
- 新規利用者掘り起こしについては、様々な機会に担当職員や集落支援員が出向き、説明・案内を行っている。また、その中においては、民生委員の方が持っている情報は非常に重要であると捉えており、これまでもそうした情報をいただきながら、新規の登録につなげている。
- また、バス育という取組は当市以外ではあまり聞かない取組であるが、園の方からも「是非うちの園へ来てほしい」と言われるほどに、好評をいただいている。バス事業者の皆様におかれても、手弁当で協力を頂いている。新型コロナウイルスの状況を見ながらの活動となるが、各方面からの希望に応えられるように、協議会としても対応していきたいと考えている。

⇒⇒利用促進については承認された。

#### 4 協議事項

##### (1) ぐるっとタクシーエリア拡大について

- ・事務局からぐるっとタクシーの運行エリア拡大について説明（資料3）
- ・10月1日（金）から竜東・美篤・手良地区、及び高遠町地区で運行を開始する。また、それに先駆け、9月1日（水）からはこれらの地区で運賃無料のプレ運行を実施する。今回のエリア拡大により、市街地を除き市内全域にお住まいの方がぐるっとタクシーの対象となる。
- ・プレ運行終了後は、既存の運行地区と同じ運行内容となる。
- ・事前の利用登録をいただけるように、地域の方が集まる場などに参加させていただき、周知に努めていく。
- ・南箕輪村から地理的に伊那市の市域に入り込むような形で位置している村域において、ぐるっとタクシーを導入したい旨の申出があり、11月1日からこれらの地区を「竜西・西箕輪地区」に組み入れる形で運行エリアの拡大を行う。

【次頁へ】

(委員) 正規の料金を500円としてスタートした後、コロナ禍の外出支援の下、キャンセル剤のような意味合いで割引が行われてきたと認識しているが、タクシー業界としては、500円が適正な金額であると考えているため、早く500円に戻していただきたい。こうした新しい公共交通機関の運行によってタクシーの仕事が減少しているという現実もあり、料金の割引はさらにタクシー業界への追い打ちになりかねないため、料金を戻していただきたいというのは、タクシー業界全体の要望である。

(会長) 他の自治体では、計画の段階で乗合交通サービスの実現が頓挫してしまった事例も聞いているが、その理由の一つは、民間タクシー事業者の皆様との十分な合意形成がなされなかったことがある。

それに対し、ぐるっとタクシーは運行時間を9時から3時に限定し、民間タクシー事業者様の書き入れ時になる時間を避け、また利用対象者を高齢者、障害者、運転免許返納者に限るなどしてバランスを取っている。

運賃については、イレギュラーな対応が続いているところがあるが、今年度末までキャンペーンを実施することをお認め頂いているので、来年度以降こういった形が良いか今後に向けて、委員の皆様にご検討いただければと思っている。

また、先進事例などがあれば、それを参考にしていくことも重要と考えている。ドアツードアでかつ定額料金で運行している公共交通が全国にどのくらいあり、またそれらが法制度や持続可能性等のどのような課題を抱えているか分からないが、何か承知されている事例などはあるか。

(委員) 全国でどのような事例があるかは、把握していない部分があるが、確認の上紹介できる事例については、改めて連絡させていただく。今回の運行エリア拡大に伴うぐるっとタクシー関係の申請手続きについては、現在伊那市の方で進めていただけるとのことなので、引き続きお願いしたい。

ドアツードアの公共交通については、様々な交通会議等で聞き及んでいるが、それぞれメリット、デメリットがある。その中で現在は、コロナ禍という背景もあるが、実際の運行していく中で、利用者の声を拾っていただきたいと思っている。

(会長) この1年余りは手探りでやってきたところだが、また何か参考事例があればと思っている。

これまでは、第一フェーズとして、まずは導入し持続可能な仕組みづくりをするということを取り組んできており、順調に実装がされてきたと考えている。次のフェーズとして、サービスをブラッシュアップしたり、見直したりしていく段階に入っていくことになる。それに関わって、現在議会でも議論されている内容であるが、市街地は周辺地区からの目的地として設定されているため、市街地内部の方は市街地循環バス等で代替していただいております、ぐるっとタクシーの利用は制限されている部分がある。しかし、伊那地区とはいえ、地勢として段丘等にある市街地上段については、交通利便性が低い地区があるため、一概に旧伊那町として捉えるのが良いのかどうか、実態に即して細やかに目配りを行っていくことが重要だと考えている。

また、市街地への誘導策の1つとして、例えば周辺地区から市街地へ買い物に来た時に割引が受けられるなどのインセンティブを設けるなどの案も考えられる。加えて、今後分析を行っていきたいと思っているが、週に複数回使用するハードユーザーについては、サブスク型の定期券のような制度を作るのも良いのでは、と考えている。

今年度中には市内全域でぐるっとタクシーが運行され、そのデータが蓄積される。委託になると思われるが、来年度はこれらのデータを分析するための予算を確保しており、データの分析を通じて課題の掘り起こしを行い、サービスの最適化を図る予定である。

その内容も踏まえて、運賃の件も含めてであるが、協議会で今後に向けた検討をお願いしたい。

【次頁へ】

- (委員) 各地域での乗合率について教えていただきたい。
- (事務局) 昨年度から運行している西春近地区と竜西・西箕輪では同じ車両4台で運行しているため、併せての数字となるが、1年間のトータルで38.8%が乗合になっており、件数としては年間で8,252回運行した内の3,202回となる。今年度4月から運行を開始した地区の状況としては、月ごとの数字ではあるが、4月が28.6%、5月28.5%、6月31.9%の乗合率になっている。詳細な分析はこれからとなるが、各地区の位置などによって、数字が異なっていると考えられる。
- (委員) 全ての地区で同一の形で運行して良いのか、ということもある。ある程度乗合率が高まらないと効率良い運行ができない。料金の割引をして利用者が増えた時に、乗合率が増えていけばよいが、車両を増やすことになる大変だと思うので、その辺りを分析されると良いのではないかと思います。
- 県内の5~6市町村でAIを導入した公共交通を行っているが、いずれも異なる事業者のシステムを使用しており、長野県は珍しいと思うが、そうしたいろいろなパターンがあるので、それらを参考にしながら、各エリアに合ったような運行を考えていくのも良いのではないかと思います。

⇒⇒ぐるっとタクシーのエリア拡大は承認された。

## (2) 路線バスの運行の見直しについて

- ・事務局から路線バスの運行見直しについて説明(資料4)
  - ・ぐるっとタクシーの運行エリア拡大に伴い、当該エリアを運行する路線バスについて利用が低調な便を中心に見直しを実施する。
  - ・「若宮・美原・手良・福島循環バス」については、手良・福島方面への乗入れの終了、「三義・長谷循環バス」については、501便・502便の減便、「藤沢線」については293便・294便の減便を行う。
  - ・「藤沢線」のジェイアールバス関東(株)自主運行便について、ジェイアールバス関東(株)中央道支店より説明。
  - ・251便・254便については、従前より利用低調な状態が続いており、加えて沿線地区でぐるっとタクシーの運行が開始されると、一層の利用の落ち込みが予想されることから、これらの便を9月末で運行終了としたい。
- また、ここ数年は新型コロナウイルスの影響もあり、藤沢線全体において利用低調な状態が続いている。ぐるっとタクシーの高遠地区での運行開始も踏まえると、一層運行継続が困難になると予想される。そのため、藤沢線のジェイアールバス関東(株)自主運行便を協議会路線として運行していただけないか、ご検討いただきたい。

- (会長) 今秋ぐるっとタクシー運行が開始されるエリアで運行する走る路線バスについて、それぞれ事情が異なるものの、ダイヤの変更や減便等が実施される。
- また、来年度以降の話であるが、ジェイアールバス関東(株)の藤沢線自主運行便については、協議会便として運行レベルを下げずにそのまま引き継いで運行するか、あるいはその部分についても減便を行うのか、今後改めて議論いただきたい。
- (委員) 今回の見直し内容は妥当なものと思う。伊那市のスタイルとして、朝、夕はバス、昼はぐるっとタクシーという需要にマッチしたような形を徐々にいろいろなエリアごとに確立していけばよいと思う。朝・夕までぐるっとタクシーにすると、タクシー事業者様の営業とバッティングしてしまうので、そうしたところを考えながら。また、定時定路線で維持できるものはしても良いと思う。
- ただ、現在使用されている高齢者の方で、ぐるっとタクシーの「予約をしなければいけない」というハードルを感じている人もいると思う。そうした方には丁寧に対応していかないと、交通難民になってしまうので気を付けていただければと思う。

【次頁へ】

- (委員) 定期的な病院の通院などにぐるっとタクシーを利用している方が多いと思われる。そのために一部の利用者が頻繁に利用している一方、たまに使おうとした利用者が使えないなどの可能性も考えられるが、利用者の固定化が進んでいることなどの状況は無いか。
- (事務局) 利用登録だけしており、実際に利用したことがない利用者もまだ多くいる。また、同じ方が繰り返し利用されていることも確認されている。まだ利用されていない方にも利用しやすい公共交通である必要があると思われるので、使い方の説明等を丁寧に行い、利用していただけるようにしていきたい。  
また、多くの方がヘビーユーザー化していくと、車両の数等の運行に影響してくると思われるので、今後の状況を分析し、検討していきたいと思っている。
- (会長) 昨年度の運行開始当初は、マッチング率（予約の成立率）が9時台において低く、これを解消するために、途中から当日予約時間を前倒したり、前日正午以降の予約を可能にしたりするなど、いろいろ運用を変えてきている。現在のところ、時間にもよるがマッチングできないケースは概ね3～4%程度に止まっている。マッチング率は乗合率にも影響するが、ぐるっとタクシーのシステム事業者の話では、乗合率は40～50%が最適で、50%を超えると車両が足りなくなり、30%を下回ると効率的で無いということで非常にシビアなところではあるが、今のところ2地区1ブロックの中で4台をフレキシブルに運行しており、今のところ概ね利用者からの予約希望にお応えできていると思われる。
- (委員) 他の自治体のデマンド交通の例では、1か月の利用回数の制限などを設けている。伊那市でも、将来的にはそうしたことを念頭に置いておくことも必要なのではないか。
- (会長) 今後利用が進めば、委員ご指摘のとおり、そうしたことも考えなければいけないと思う。ただ、現在は利用を掘り起こすフェーズだと思うので、免許を返納し、ぐるっとタクシーが頼みの交通手段となっている方などについては、運行のマッチングが相当低下しなければ、希望に叶う形で運行していきたいと考えている。
- (委員) ぐるっとタクシーの運行エリアが広がっていくが、それに併せて宣伝も必要だと思う。有線放送などを通じてイベントの開催に合わせた利用の宣伝等をできれば、利用の増加につながるのではないかと思う。
- (会長) 参考にさせていただき、利用啓発につなげていきたい。  
ぐるっとタクシー運行開始以降、「市長の手紙」等を通じて、感謝の声などをいただいているが、利用者である高齢者や障害者の目線から挙げられた、ぐるっとタクシーに関する意見等を何か把握されているか。
- (委員) 新たに運行を開始する地区の住民の方からぐるっとタクシー運行開始に対する期待の声が寄せられていると聞いている。社会福祉協議会としても、草の根的な活動ではあるが、地域の皆様に声掛けをしていきたい。
- (会長) 皆様それぞれの立場からぐるっとタクシーを宣伝いただきたいと考えている。

⇒⇒路線バスの運行の運行見直しは承認された。

## 5 その他

(事務局) 本日の会議の概要を後日ホームページで公開する。

## 6 閉会

【以上】